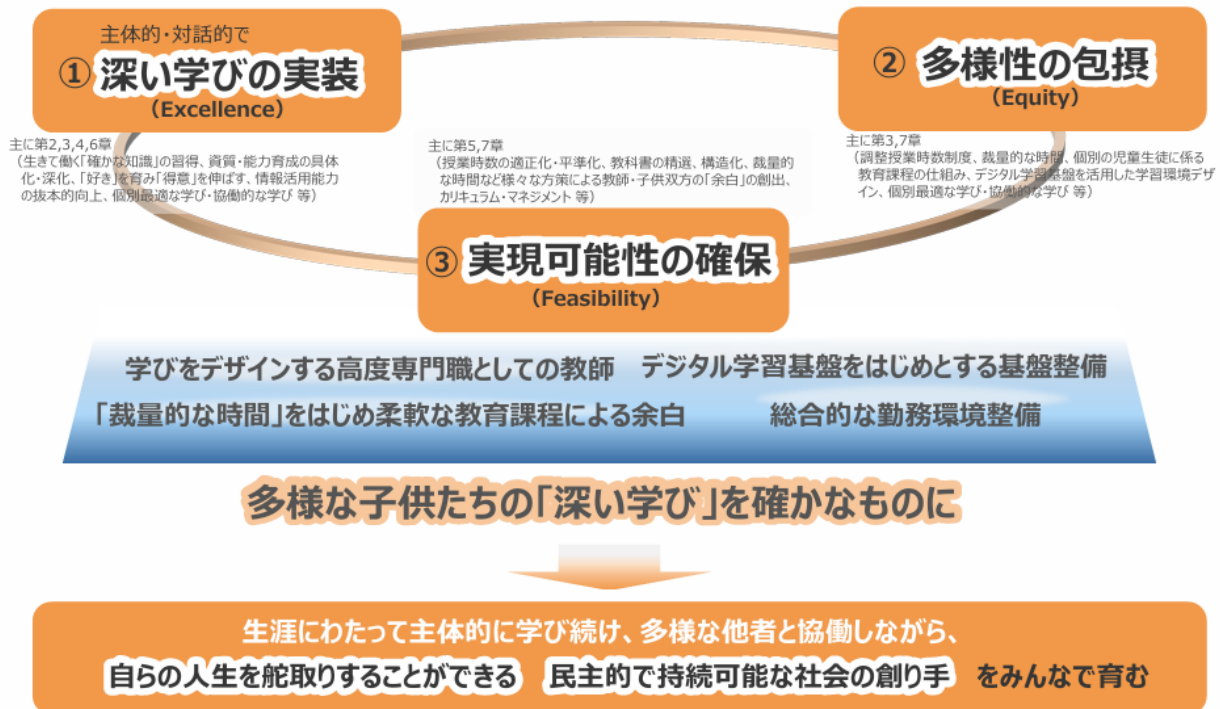




次期学習指導要領を見据えた今後の教育の在り方～情報活用能力の抜本的向上を中心に～をテーマに兵庫県内研究所連盟理事会にて、兵庫教育大学森山学長に講義いただきました。

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



★これらを実現するための情報活用能力の抜本的向上に係る主な課題

情報技術の

※コンピュータ、情報通信ネットワーク、AI、メディア等

① 活用

情報技術の基本的な操作及び情報技術を活用した情報の収集、整理・比較、発信・伝達等に関すること

<具体的な課題>

- 小学校において教科等に明確に位置付けがなく、地域や学校による差が大きい
- 探究の学習の過程において情報技術の活用が十分ではない

② 適切な取扱い

情報技術を扱う際の留意事項に関すること(情報モラル、権利と責任等)

<具体的な課題>

- メディアリテラシーについて学校の取組差が大きい(発信源の確認、複数媒体の比較、ファクトチェック等)
- 急激なスピードで広がる負の側面への対応が不十分(フィルターバブル、エコーチェンバー、デジタルとアナログの適切な使い分け、長時間利用の影響の理解を含むデジタルとの適切な距離の置き方に関する自己調整)

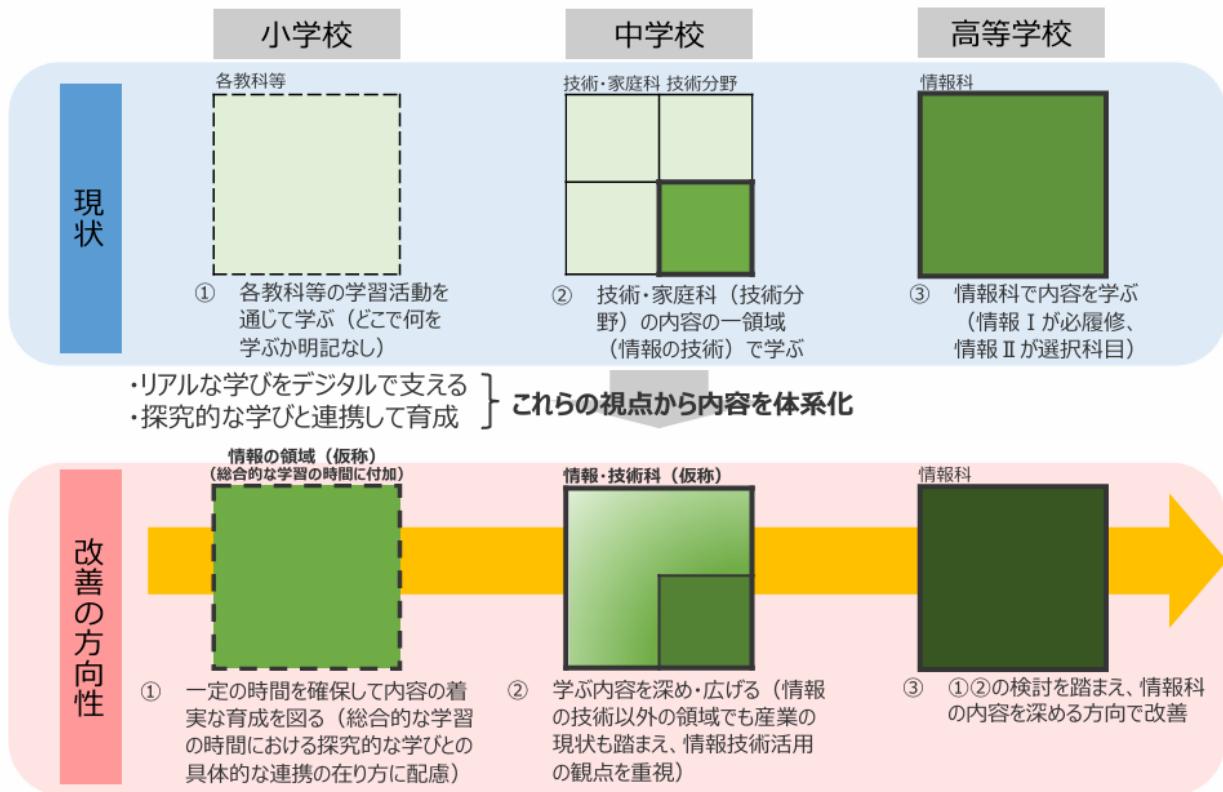
③ 特性の理解

情報技術の特性の科学的な理解に関すること(コンピュータの仕組み、データ活用等)

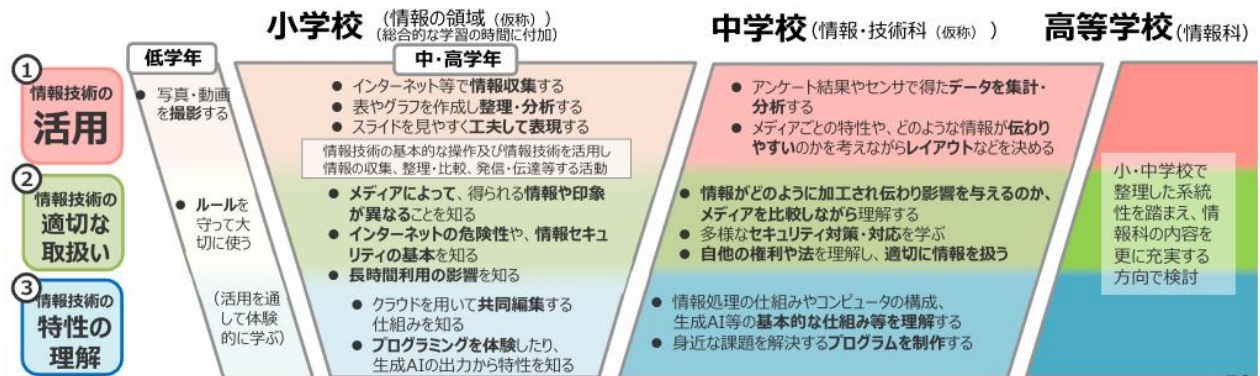
<具体的な課題>

- 小学校では扱われていない
- 中学校では技術分野の一部での取扱いにとどまる(産業や職業との関連が弱い)
- 学校種通じ、生成AI等の先端技術に関わる内容が明確に位置付けられていない

★情報活用能力の抜本的向上の方向性イメージ(教育課程の改善)



★発達段階に即した学習活動を検討していく必要がある。



次期学習指導要領のポイント(情報活用能力) → 情報活用能力の抜本的な向上、デジタル学習基盤、デジタル教科書

国(内閣府)がこれからの社会(Society5.0)を具体的に示しました。次期学習指導要領の論点整理にも関連する内容が整理されています。

その一つが、今回の**情報活用能力の抜本的向上**になります。掲載している資料は、文科省のHPのもので、さらに詳しい関連資料も掲載されています。小学校で**情報の領域(仮称)**、中学校で**情報・技術科(仮称)**、そして高等学校の情報化につながるイメージが示唆されています。

ICTの活用が**手段ではなく目的**となることには**気をつけなければなりません**が、豊岡市の教育の基本姿勢である「**子どもの事実に学び、子どもに寄り添う**」教育の充実に向け、これらの情報に対するアンテナを高くはり、**今からできること**を教育行政(研修、環境整備、新しい実践の創出等)も学校(教材研究、研修等)も含めて(教材開発、環境整備)を**先んじて展開していくことが重要**となってきます。

今年度は、次期学習指導要領の方向性について、少しでも皆様に**情報共有・発信**できたらと考えています。